



10th anniversary

NPO法人ウィメンズアイは、
法人設立から10年を迎えました。
これまで支えてくださった皆さまに、
心より感謝いたします。
これからも、女性たちの声を
大切にしながら、
地域に根ざした活動を続けていきます。
今後とも、
どうぞよろしくお願いいたします。

女性のまなざしでしなやかな社会を

WE

特定非営利活動法人
ウィメンズアイ

2023年度活動報告書・決算報告書
2023年6月～2024年5月

2023.6-2024.5

気仙沼デジタル調査およびデジタル研修の実施

地域女性のICT研修プロジェクトは、女性たちのスキルやキャリアの向上を支援することを目的に、2023年4月にスタートした3年間の取り組みです。開始直後には事前ヒアリングを行い、8月21日から9月5日にかけて気仙沼市と連携し「気仙沼市で暮らす女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」（有効回答1,445件）を実施しました。調査からは、①デジタル研修への関心が高く、デジタル・PCスキルアップに興味があるかという質問では、興味があると回答した人が全体の7割を超え、「仕事に活かしたい」「収入アップにつながる」といった仕事に関する動機が多いこと、また、気仙沼市であつたらいいと思う講座については「パソコンの基礎講座」が最も多く、基礎を学ぶことへのニーズが高いことが明らかになりました。②学びたい意欲はある一方で、半数が自分専用のパソコンを持っていないこと、③子育て中の女性の多くが、介護との両立も可能な柔軟な職場を求めていることが明らかになりました。この調査は、2023年10月に気仙沼市長へ、2024年3月には笹川平和財団とW20主催の国際女性デーイベントで発表しました。

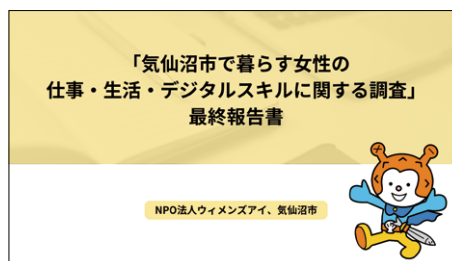
調査結果報告

- 10/10 気仙沼市長報告会実施、「気仙沼市で暮らす女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」速報版および集計一覧表（自由記述なし）公表
- 3/8 笹川平和財団xW20国際女性デーイベント
- 3/11 「気仙沼市で暮らす女性の仕事・生活・デジタルスキルに関する調査」最終報告書および集計一覧表（自由記述入り）公表

2023年11月に地域女性のための研修プログラム「デジタル・カレッジUP」の設計を開始しました。調査結果をもとに、女性たちが必要とする学びの内容や、継続して学ぶために欠かせない支援について検討を重ね、カリキュラム構成やサポート体制、実施時間、コミュニケーション方法を具体化しました。プログラムは2024年5月から2026年3月までの3チームで展開予定です。第1チームは5月26日から9月1日にかけて実施予定で30名が参加します。講座はオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式で行われ、デジタル基礎知識や



気仙沼市長報告



調査最終報告書

Excel講座、資格取得支援など幅広い学びを提供します。受講者は「しっかり学ぶ&キャリアを考えるコース」と「自分で学ぶコース」に分かれ、各15名が参加。パソコンの無料貸出や託児・学習スペースの提供など、安心して学べる環境づくりにも力を入れました。本プログラムは、気仙沼市と共催し、シャネル財団、ロクシタンジャポン株式会社、株式会社True Dataなどの支援を得て、気仙沼まち大学運営協議会が共同事務局を担当。初回の対面講座にはメディア関係者や市職員サポーターなど計55名が集まりました。



対面講座の様子



第1期生集合写真（5/26対面講座）

ビジネススキルアップセミナー「働きたい女性の一步を応援する」

気仙沼市雇用創造協議会主催のもと、全5回のスキルアップセミナーを企画・運営しました。自分らしい働き方を見つけるとともに、就労に向けた具体的なスキルを習得することを目的としています。9月26日には適性診断テストを活用し、自分に合った仕事を考える機会を提供しました。10月17日には、活用できる制度や求人票の見方について学び、11月7日と11月21日には実践的なWord・Excelスキルを習得しました。最終回の12月5日にはリモートワークをテーマに、柔軟な働き方への理解を深めました。各回の講師は経験豊富な専門家が務め、参加者の疑問や不安に寄り添いながら講義を進めました。無料の託児サービスを提供し、小さなお子さんを持つ方々も安心して参加できる環境を整えました。さらに、セミナー終了後は就労相談の時間を設けました。受講者からは、「適性診断を通して自分の強みを知ることができ、就職活動の方向性が明確になった」「パソコンスキルを身につけたこ

とで、自信を持って仕事探しができるようになった」といった前向きな声が寄せられ、多くの女性が新たな一步を踏み出すきっかけとなりました。



10月17日、ハローワークの求人票で女性が働きやすい仕事の探し方を学ぶ

大谷海岸オフィスミモザ



10月21日、オフィスミモザのオープンハウスが開催された。

WEは、女性が自身のライフスタイルに合わせて継続的に働きながらスキルアップを目指す「オフィスミモザ」事業に参画しています。この事業は、IT分野における女性の雇用機会を創出し、特に子育て中の女性が安心して働ける環境づくりを目的としています。休みを取りやすい職場づくりを進めることで、育児と仕事の両立支援に取り組んでいます。2022年春には、気仙沼市と(株) True Data、NPO法人「人間の安全保障」フォーラムとの包括連携協定に基づき、「大谷海岸オフィスミモザ」が開設され、事業が本格的にスタートしました。同年4月には、(株) ルピナスネットワーク（本社：宗像市）が気仙沼市在住の女性3名をデータメンテナンス業務で雇用。さらに、2024年5月からはWEがTrue Data社からの業務を受託し、新たに3名を雇用しています。今後は事業のさらなる拡大と教育プログラムの充実を図り、地域の女性がよりいっそう活躍できる就労拠点を目指しています。

子どもの居場所「みらいと」

WEが、NPO法人「人間の安全保障」フォーラムと共同運営する子どもの居場所「みらいと」は、2022年11月に気仙沼に開設して以来、来所者は増え、2023年6月から2024年5月の1年間で延べ528名の子どもたちが訪れました。開所日は月曜・水曜の午後3時から午後7時まで。学校や家庭とは異なる、自由に過ごせる「第三の居場所」として親しまれています。季節や興味に寄り添ったイベントも多数開催し、子どもたちの自主性や創造性を育ててきました。6月には傘立てや看板づくり、7月には噴水フルーツポンチ、8月にはこども夏祭りを開催し親子130名が参加。その後も、ハロウィン、巨大アート、クリスマス会、2024年1月には手作りアイスクリーム、似顔絵パンケーキ、身体を動かして楽しむ9マス鬼ごっこ、知恵を絞って遊ぶナンジャモンジャゲーム、5月にはFamily Dayと、多世代がつながる機会も大切にしています。また、2024年7月には気仙沼市神

山地区から田中へ引っ越し、子どもたちの過ごすスペースが広くなりました。今後も子どもたちの声を大切に、安心して集える場づくりを続けていきます。



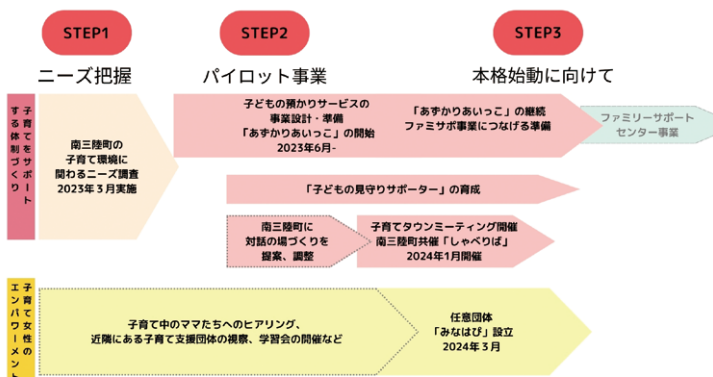
普段の子どもたちの様子



南三陸子そだてハッピープロジェクト

前年度に実施した子育てニーズ調査結果を活かし、子育てを地域で支え合うためのしくみとして、南三陸町において、子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）の導入を目指し、子どもを預けたい親と預かることができる方を対象にしたパイロット事業を実施しました。あわせて、子育て世代が地域の子育て環境づくりに主体的に関わるきっかけとして、子育て中の母親たちによる子育て支援団体の立ち上げを支援しました。

また、地域の子育てに関わる課題や仕組みについて、行政と当事者・関係者が対等に意見交換できるよう、フラットな話し合いの場の企画・提案も行いました。



パイロット事業「あずかりあいっこ」

本事業は、保護者が用事やリフレッシュなどの際に、一時的に子どもを預け合える仕組みで、地域住民による「子どもの見守りサポーター」が運営を支えています。対象は0～2歳程度の子どものみで、理由を問わず柔軟に利用可能です。実績として、12組の親子、18名の見守りサポーターが登録。期間中には全体で19回の利用がありました。

これまで南三陸町には一時預かりサービスがなく、「子どもは親や家族が育てるもの」といった価値観が根強く残っていました。しかし、核家族化や共働き世帯の増加に伴い、支援を必要とする家庭も少なくありません。パイロット事業では、対象となる家庭の約2割が登録するなど、一定のニーズを確認することができました。さらに、地域住民が子育てに関わる機会が生まれ、子育ての課題を地域内で共有する土壌が少しずつ育まれています。



子どもの見守りサポーターが子どもたちの預かりを手助けしてくれます。



南三陸町社会福祉協議会のご協力で、「あずかりあいっこ」のスペースとして、「結の里」を借りています。

「みなはび」の設立

本プロジェクトを始めるきっかけとなったのは、子育て中の母親たちによる要望書の提出や、昨年度実施した子育てニーズ調査、さらに子育て支援団体の視察に参加した女性たちの存在でした。彼女たちが中心となり、2024年3月に任意団体「みなはび」が設立されました。WEはこの設立を支援し、現在は「みなはび」と連携しながら、南三陸

町における子育て課題の解決に向けた取り組みを進めています。

そのうちのひとつである「みなはびひろば」は、週末に子どもが遊べる場が不足しているという地域の声を受けて、公民館など町内の施設を活用し、親子が気軽に集える遊び場を企画・運営しています。2023年12月から2024年4月までに3回開催し、おさがり会や、防災紙芝居、ビーチクリーンなどに合計188名が参加。参加者からは「毎週末をどう過ごそうか悩んでいたが、町内で子どもたちを連れて遊べる場があるのはとても助かっている」といった声が寄せられています。

みんなで子育て作戦会議「しゃべりば」

子育て中の親と行政がフラットに話し合える場として、南三陸町・任意団体「みなはび」・ウィメンズアイの三者共催で「しゃべりば」を開催しました。この取り組みは、プロジェクト開始当初からママたちの間で強く求められていた「行政と直接話せる場がほしい」という声に応える形で実現したものです。

初回には、子育て世代をはじめ、子育てや教育に関心を持つ町民や南三陸町社会福祉協議会の関係者など、約30名が参加。参加者からは、「町の子育てのリアルな課題に、『みんな同じ思いなんだね』と共感できた」「多様な意見を聞き、自分に足りない視点に気づけた」など、前向きな感想が多数寄せられました。

「しゃべりば」の開催を受けて話し合いの内容を整理し、自分たちでできることから進めることにしました。

参加者同士、問題意識を共有し、この町でできることを提案し合いました。



みなはびメンバーより、任意団体「みなはび」の取り組みについて発表

女性と女の子の相談窓口

WEは「女性と女の子の相談窓口」を通年で開設し、女性相談員3名が南三陸町、気仙沼市、登米市をはじめ、近隣自治体の女性たちからの相談に対応しています。

2023年度には、計190件の相談に対応しました。相談方法は、電話相談(平日・土曜の10時から18時)、随時受け付けているメール相談、予約制による対面相談など、利用者の状況やニーズに応じて柔軟に対応できる体制を整えています。また、必要に応じて出張相談も行っており、気仙沼ハローワーク内会議室で2件、登米保健所内会議室で10件、さらに気仙沼市内でも1件実施しました。2023年8月からは、学習支援を行う「志翔学舎」へのアウトリーチ活動も開始し、月2回の定期訪問を続けています。

相談内容は昨年同様、家族に関する悩みが全体の4割を占めており、最も多い傾向が続いています。

また、性暴力や精神疾患を抱える相談者からの深刻な相談にも対応するため、今年度はNPO法人ハーティ仙台主催の「相談員スキルアップ研修会」を受講し、性暴力被害者支援に関する知識と理解を深めました。



若年層の生理や性に関する問題への対応

若者層からの相談も増加しており、10～20代からの相談は全体の26%を占めています。その中でも、生理の遅れや予期せぬ妊娠に対する不安をひとりで抱え込んでいるケースが多く見られます。相談員は、妊娠検査薬の正しい使用方法などの具体的な情報提供に加え、自分の体を守るための知識や、パートナーとの適切なコミュニケーションについても丁寧にアドバイスをを行っています。

こうした日常的な相談対応に加え、情報発信や交流の機会づくりにも力を入れています。かわら版『yukimichiだより』を年2回発行し、地域の女性たちへの情報提供を行いました。また、「女性のためのほっとスペース」と題したイベントを年4回実施。ハンドマッサージや助産師による出張相談を通じて、心と体の両面から女性たちをサポートしました。

*この事業にはネット寄付サイトGive One、隈研吾事務所刺し子ジャケットチャリティプロジェクトの寄付を活用しています。

*事業の一部は「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」の一環として、宮城県の補助金を用いて行いました。



「女性のためのほっとスペース」にて、子育て中のママたちに簡単な心理テスト「交流分析」を実施しました。



ハンドマッサージでは、手の疲れだけでなく、気持ちもほぐされる様です。

出張マルシェ「小さなたがい市」

地域の女性たちが中心となる小規模事業者と、南三陸町社会福祉協議会が協力して実行委員会を組織し、日常の買い物が困難な復興公営住宅や高台移転後の住宅に暮らす住民のために、出張マルシェを開催しています。この取り組みは、単なる買い物の場にとどまらず、地域住民が顔を合わせ交流できる機会として、町内に少しずつ定着しつつあります。

2023年4月から11月にかけて全7回の出張マルシェを実施し、延べ57店舗が出店、来場者はのべ555名にのぼりました。毎回、訪れた方々からは「久しぶりに友人に会えた」「地域とつながれる貴重な時間」といった声が寄せられ、買い物だけでなく、心を通わせる場としても好評を得ています。



実行委員会形式での運営も2年目。たがい市で楽しくつながるコミュニティが育っています。

パン菓子工房 oui



工房前の麦畑で、写真左(製造スタッフ:佐々木)、中央(工房長:栗林)、写真右(販売スタッフ:菅原) 7年目にしてようやくできた

ouiのパンの製造・販売は、製造スタッフ1名と販売スタッフ1名の体制で、毎週水、金、土の週3日で営業しています。今年は、ouiオリジナルのクッキー缶を制作し、3種類のジャムサンドクッキーの販売を開始するなど、焼菓子にも力を入れて取り組みました。

シェア工房の利用登録5名(2024年4月更新時)。食の事業にチャレンジする女性たちのスタートアップをサポートする取り組みとして、周辺地域からの利用も続いている。食の事業にチャレンジする女性たちのスタートアップをサポートする取り組みとして、周辺地域からの利用も続いている。

グラスルーツアカデミー（東松島、花巻）

2015年に第3回国連防災世界会議のプレイベントとして開催された「国際地域女性アカデミー in Tohoku」を契機に始まったグラスルーツ・アカデミー東北は、岩手、宮城、福島若手女性のエンパワーメントを目的に、これまで継続的に開催してきました。今年、アカデミー卒業生の有志が主体となり、自ら企画・運営を行う新たな取り組みが実現しました。2023年6月には、宮城県東松島市で「グラスルーツ・アカデミー東北 アルumni・ギャザリング2023」を開催し、過去の卒業生15名が集いました。ワークショップでは、それぞれの地域課題を再認識し、解決に向けて必要な学びについて議論を深め、今後のアカデミーの方向性についてアイデアを出し合いました。その中から生まれたアイデアの一つが、12月に岩手県花巻市で開催した学びのツアーで

す。16名が参加し、アカデミー卒業生が運営に関わる産後ケア施設「まんまるママいわて」と「るんびに美術館」を訪問しました。参加者は、地域に根差した活動の意義を学び、課題や解決策に向けた取り組みについて意見を交わし、互いに交流を深める貴重な時間となりました。



「るんびに美術館」のキュレーターをしている佐藤茜さんからお話を伺いました。

*本プロジェクトは、ロクシタンジャボン株式会社からの継続的な支援を受けています。

気仙沼市アクティブ・ウーマンズ・カレッジ第7期

気仙沼市からの委託を受け、「アクティブ・ウーマンズ・カレッジ」第7期を企画・運営しました。この連続講座は、18歳から40代の気仙沼市内在住・通勤・通学の女性を対象に、全6回にわたり開催。受講料は無料で、子育て中の方も安心して参加できるよう、一般社団法人おりがみによる無料託児サービスも提供しました。



小野寺愛さんの講義に参加者は熱心に耳を傾けました。



AWCの運営スタッフ、写真左から（石本、赤畑、栗林、矢野）



講座の始まりは、身体を使ってアイスブレイクの様子

第1回は、オリエンテーションとチームビルディングを通じて、参加者同士の信頼関係を築きました。第2回は、地域で実践的に活動する先輩女性たちである天澤寛子さん（NPO法人浜わらす事務局長）と半沢裕子さん（一般社団法人おりがみ代表理事）を講師に迎え、自分らしい「はじめの一步」について学びました。第3回は、栗林美知子（NPO法人ウィメンズアイ南三陸所長）によるワークショップを通じて自分自身の価値観や強みに向き合う時間を持ちました。第4回は、地域課題を自分ごととして捉え、行動に結びつける視点を育むセミナーを小野寺愛さん（スローフード三浦半島代表）を迎えて実施しました。第5回は、市内のデザイン会社ペンシーの鈴木歩さんと加藤尚さんの協力を得て、自分の思いを表現するキャッチコピーを考え、オリジナル名刺を作成しました。最終回となる第6回は、これまでの学びを振り返り、気仙沼市長との名刺交換を通して、それぞれの小さな一歩を言語化することに挑戦しました。名刺は、それぞれのアクションを後押しするアイテムとして次の一歩を応援します。

「スローな交流会」を通じたネットワークづくり

これまでの修了生と今期生、さらに地元講師など講座関係者が集う「スローな交流会」を気仙沼まち大学運営協議会と企画・共催しました。

交流会には28名が参加し、第4回講師である小野寺愛さんを囲んで、近況報告を行いました。参加者は自身のアクションやその後の変化について語り、互いに刺激を受けながら、今後の活動への意欲を新たにしました。



スローな交流会の参加者全員で集合写真

ローカル女子と未来をひらくプロジェクト ～COMADO～

「100 STORY」プロジェクトでは、東北で活躍するローカル女子（ロカ女）の物語を発信してきました。例えば、仙台市の稲村友紀さんは、NPO法人アスイクの荒井児童館館長として子どもたちの多様な経験をサポートし、宮城県東松島市の関口雅代さんは、移住コーディネーターとして地域の魅力を伝えています。これらのストーリーは、地域に根ざした女性たちが生み出す新たな可能性を示し、多くの共感と呼んでいます。COMADOは、こうした物語の発信を通じて、ローカル女子が一歩を踏み出すためのプラットフォームとなることを目指し、2023年度は12人の物語を発信しました。

男女共同参画セミナー

～みやぎ女性活躍ネットワーク事業～

2024年1月、宮城県の「みやぎ女性活躍ネットワーク事業（気仙沼・登米地域）」の一環として、一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表理事の能條桃子氏を講師に迎え、若者の声に耳を傾けるジェンダー平等に関するセミナーと高校での講演会を開催しました。

1月24日に実施した登米高校での特別講演は、1年生および2年生の対象100名のうち89名が参加しました。参加者からは「今の社会に感じていた違和感が自分だけのものではないとわかり、自分の意見も言いやすくなりそうだ」「自分では平等に接しているつもりでも、相手にとってはそうではない場合があると気づかされた」といった声が寄せら



れました。高校生たちは、講師の話を通じてジェンダー平等に関する理解を深め、自分の考えを持つことの大切さに気づく時間となりました。

講師派遣

- 6/5 立教大学「ローカリズム原論」(講師：栗林)
- 6/14 立命館大学「災害とジェンダー」(講師：石本)
- 7/19 JICA北九州「女性とコミュニティ・エンパワメント」(講師：栗林)
- 9/4 ベイン&カンパニー「企業のジェンダー平等について」(講演：石本)
- 10/13 中央大学「地方のジェンダー課題について」(講師：五十嵐、米倉)
- 11/26 土木計画学研究会「三陸沿岸部と内陸部に暮らす女性たちと自然との関わりにみる暮らしの課題」(発表：栗林)
- 12/5 W7Japan実行委員会オンラインイベント「G7日本2023どう活かす？～日本のジェンダー平等を加速するために～」(登壇：石本)
- 12/18 商工会青年部男女共同参画オンラインセミナー「地域×デジタル×ジェンダー」(講師：石本)
- 1/9 上智大学「NGO Management」(講師：石本)
- 3/5 大阪いきいき財団「ライフボーチャワークショップ」(講師：栗林)
- 3/8 笹川平和財団xW20国際女性デーイベント「デジタルとジェンダー：ジェンダーギャップを埋めるために」(パネリスト：石本)
- 3/23 立教女学院高等学校「『この町で生きる』モチベーションと大事にしていること」(講師：栗林)
- 5/31 大阪いきいき財団「地域防災女性ファシリテーター養成講座」(講師：栗林)

出版、インターネット等を用いた広報・情報発信事業

●年刊雑誌国際女性37号、特集2ジェンダー平等・女性のエンパワメントとデジタル時代「W7 デジタル声明」作成プロセスとアドボカシー成果（W7 デジタルステートメント全文掲載）(共著：石本めぐみ)

2023年度決算報告(概要) 2023年6月1日～2024年5月31日

(単位:円)

経常収益	37,089,436
助成金・補助金	16,599,446
民間からの助成金（*1）	16,599,446
寄付	9,709,025
一般寄付（*2）	6,095,160
プロジェクト指定寄付（*3）	3,613,865
事業	10,774,643
交流事業	89,750
人材育成事業	3,149,938
広報事業	943,775
うみさと暮らしのラボ事業	25,000
うみさと暮らしのラボ事業 （パン菓子工房事業）	6,566,180
その他	6,322

経常費用	35,437,139
プロジェクト費	33,060,896
交流事業	298,702
人材育成事業	23,096,898
広報事業	343,775
うみさと暮らしのラボ事業	765
うみさと暮らしのラボ事業 （パン菓子工房事業）	8,301,901
子そだてプロジェクト	1,018,855
管理費	2,376,243
経常外費用	160,744
法人税、住民税及び事業税	72,003
当期正味財産増減額	1,419,520
前期繰越正味財産額	20,621,278
次期繰越正味財産額（*4）	22,040,798

*1 内訳：チャネル財団、Yahoo!基金

*2 寄付者名簿（5万円以上）はホームページにて掲載しております。

*3 相談事業、グラスルーツ・アカデミー東北

*4 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます

Message from Women's eye この1年

2023年度、ウィメンズアイは積極的に新たな挑戦を進めた一年となりました。物価の高騰やChatGPTの普及をはじめとするデジタル化が急速に進化したことによって、女性たちの働き方や生活スタイルにも柔軟な変化が求められるようになり、私たちは現場の声にしっかり耳を傾け、具体的なアクションを重ねてきました。

気仙沼市では人口減少対策に本格的に取り組む、2つの100人市民会議「みらい人口会議」と「サステナ市民会議」を開催。WEもAWC卒業生たちと共に参加し、女性が生きやすく、働きやすい地域づくりに向けた提案を行いました。さらに8月には、①地域の主体的な担い手となる女性の人材育成、②女性と女の子の相談事業、③女性の仕事と生活の意識調査、④女性の雇用、就労につながる仕組みづくり、⑤女性を対象としたICT研修の事業について、気仙沼市と3年間の包括連携協定を締結しました。

その一環として、気仙沼市と共催した18～49歳の女性7062人を対象とする調査では、回答者1445人のうち75%が「デジタルのスキルアップに興味がある」と回答しました。また、「転職に活かしたい」「収入を上げたい」という切実な声を受け、スキルアップとキャリアの幅を広げる場として「デジタル・カレッジUP」を立ち上げました。この3ヶ月間の研修には30名が参加し、「学ぶ場があることで、これからのキャリアを前向きに考えられるようになった」といった前向きな声が届いています。2023年度は課題を見つけるだけでなく、解決へ向けた実践の年となりました。どんな状況でも、一歩踏み出せば必ず変化は生まれます。その小さな一歩が、誰かの未来を切り開く力になると私たちは信じています。これからも地域の女性たちが自らの可能性を広げ、力強く進んでいけるよう、私たちは活動を続けていきます。

石本めぐみ

東日本大震災後の復興支援の経験から、
地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。
私たちの活動は皆様に支えられています。
どうか、ウィメンズアイを応援してください。

クレジット決済寄付

寄付サイトSyncableを通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター（毎月定額寄付）、あるいは今回のみ寄付をお選びください。

<https://womenseye.net/support>

寄付サイトGive oneから、ウィの「女性と女の子の相談窓口」への寄付ができます（寄付金控除など税制優遇対象）

<https://giveone.net/index.html>

振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

振込口座

〈銀行の場合〉

ゆうちょ銀行

金融機関コード9900

店番:818

預金種目:普通

店名:ハ－八店(ハチイチハチ店)

口座名:特定非営利活動法人ウィメンズアイ

口座番号:1966320

〈郵便局からの場合〉

郵便振替口座:18190-19663201

口座名義:トクヒ)ウィメンズアイ



2023年6月、WEの事務所は南三陸町歌津に引っ越しました。この建物は、NPO法人南三陸ミシン工房様よりご寄贈いただきました。本当にありがとうございます。

ブックレットのご案内

ローカル女子と未来をひらく ～ 災害復興と女性のエンパワメント2011-2020

(2021年9月刊行 B5判カラー 本文52頁+表紙)

冊子版 1冊500円(税込)+送料

Kindle版 500円(税込)

amazonで販売中 →



英語版はこちらのサイトで

無料公開しております

[https://womenseye.net/wp02/](https://womenseye.net/wp02/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

[wp-content/uploads/2022/12/](https://womenseye.net/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

[booklet_E02.pdf](https://womenseye.net/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

*英語版制作には米日財団のご寄付をいただきました



WEのビジョン

いのちと暮らしを真ん中に自分をいかし
歩み続ける女性たち

WEのミッション

- ①地域女性のエンパワメント
 - ②地域女性をとりまく環境を手入れする
 - ③地域女性の声を内外に伝える
- (2022年10月策定)

特定非営利活動法人ウィメンズアイ
Women's Eye

ホームページ

<https://womenseye.net>

Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

住所 〒988-0474

宮城県本吉郡南三陸町歌津字田表35-1

(2023年6月1日より)

TEL 0226-25-9517

FAX 0226-25-9519

メール info@womenseye.net

○2023年度末(2024年5月31日)現在

正会員18名

スタッフ総勢:11名

事務局長 五十嵐光

○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美(弁護士)

理事 西村和代(株)カラースジャパン代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 田島誠(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)

理事 栗林美知子

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)

